

エコ栽培で甘いトマト作り

収益性の高いトマトの直売経営を確立するため、消費者の要望に迅速に答えられる生産方法を開発しました。毛管水を利用した給液方式とコーティング肥料を組み合わせ、ベツト毎に品質管理できる「省力・低コストな高品質トマト生産システム」です。

1 省力・低コストな高品質トマト生産システムの開発

写真のような容量10リットルのポツトに市販の培養土を充填し、緩効性肥料を全量元肥として施用します。灌水については雨どいと不織布を利用し、電力を使わない低コストなシステムです。

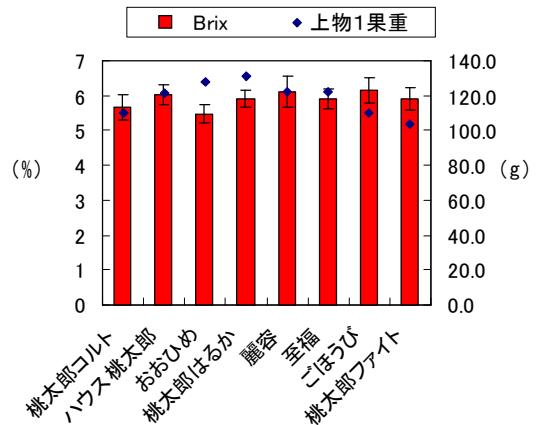
この方法により、低温期では13段程度まで果実の糖度を容易にコントロールすることができます。



新方式における栽培のようす

2 新栽培システムに適した品種

高温期（は種期：3月25日、定植期：5月25日）においては、収量性や糖度（Brix）から「桃太郎はるか」、「おおひめ」、「ハウス桃太郎」、低温期（は種期：9月4日、定植期：11月7日）においては、「サンロード」、「桃太郎J」、「桃太郎はるか」が有望です。



高温期におけるBrixと上物1果重

3 新トマト栽培システムの経営効果の実証及び評価

夏期に栽培ポツトをビニールで被覆しただけの簡易な太陽熱消毒をおこなうことにより、繰返し3回はポツトと培養土の使用が可能です。

また、新栽培システムでは直接生産販売費用を慣行より約10%程度削減でき、労働時間も143時間削減することができます。